

(水)

荒野が神の家に

創世記二八章

私はあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにしてもあなたを守り、この土地に連れ戻す。私はあなたに約束したことを果たすまで、決してあなたを見捨てない。(15)

兄エサウの恨みを買ったヤコブは父の家を逃げだし、一人寂しく荒野で野宿しました。その夜、彼は一つの夢を見ます。地上から天に向かって梯子が立っており、御使いたちが上り下りしていました。そのとき、主がヤコブの今日の聖句を語られました。それまで祖父アブラハムや父イサクの神でしかなかったお方が、ヤコブにとって私の主となったのです。夢から覚めたヤコブは驚きの声をあげます。「本当に、主がこの場所におられるのに、私はそれを知らなかった」(16)と。助けてくれる人が誰もいないと思っていた荒野で、主が共におられることを発見したのです。ヤコブはその場所をベテル(神の家)と名付けました。私たちがどこにいても、荒野野のような場所に身を置いても、主が共にいてくださるならば、荒野野も神の家に変わります。この約束と共に、今日の歩みを始めましょう。